

# 被害調査にドローン活用

## 「防災まちづくり大賞」 日本防火・防災協会長賞 県協議会が受賞

### 「防災まちづくり大賞 表彰式」



表彰を受けた山本竜伸分科会長（左から2人目）ら＝20日、東京都内

【東京支社】産学官でつくる県ドローン協議会の防災・減災分科会が消防庁の「防災まちづくり大賞」で、日本防火・防災協会長賞を受賞した。災害後の被害調査にドローンを活用してき

た実績が評価された。表彰式が20日、東京都内のホテルであった。

分科会は2023年に発足し、ドローンを扱う県内の37社が加盟している。24年夏の台風10号では、大量

の土砂が流入した大分自動車道由布岳パーキングエリア（由布市湯布院町）など10カ所を空撮。昨年11月の大分市佐賀関の大規模火災では、赤外線カメラを搭載したドローンで熱源を調べ、消火活動に協力した。

表彰式で高橋克法総務副大臣が「今後も地域防災力の向上に尽力してほしい」とあいさつ。大分市のIT企業「ザイナス」常務の山本竜伸分科会長（50）は「メンバーが一枚岩となり、災害へ対応する仕組みづくりに励んできた。評価されてうれしく思う」と話した。

（萱嶋悠）